

土木学会四国支部「土木紀行」No.72(高知県)

「浦戸大橋」



写真1 浦戸大橋

高知県の南側には、土佐湾が広がっている。土佐湾から、高知市の中央まで入ると、名称は浦戸湾に変わり、高知の海の玄関口と呼ばれている。そして、その湾の入り口に架かっている橋が浦戸大橋である。

浦戸大橋は、全長 1480m、高さ 50m、車道幅 6.5m、歩道幅 0.75m×2 の 5 径間連続箱桁であり、1972 年 7 月に完成した。浦戸大橋ができるまでは、県営渡船により、種崎－桂浜間が結ばれていたが、制限を受ける大型車等は高知市内を迂回するしかなかった。それゆえ、浦戸大橋の完成により、大型車の労力を和らげることができただろう。また、高さが海面から 50m もあるのは、橋の下を大型フェリー(大阪高知特急フェリー)が当時通行していたためである。この高さゆえ、自殺者の数が後を絶たず、対策として管理者が高さ 3m を超える忍び返しに付いたフェンスを両端に設置し、



写真2 浦戸大橋(車道)

自殺数を防止している。自動車での利用を前提としたため、歩道はわずか0.75m程しかなく、歩行者と自動車の間隔が狭い。歩行者同士のすれ違いも困難であり、徒歩や自転車での通行はお勧めしない。いざ、歩道を渡ってみると、やはり歩道の狭さと橋の高さでかなりの恐怖に煽られる。しかし、橋の頂上付近から景色を眺めると種崎を一望することができる。さらに、土佐湾も眺めることができる。



写真3 浦戸大橋入口（桂浜側）

実際に、高知龍馬空港から車を走らせ、種崎側から浦戸大橋を渡ると桂浜に到着する。桂浜には、坂本龍馬の銅像が建てられており、2010年に放送された大河ドラマ「龍馬伝」の影響で、大変多くの観光客が訪れるようになった。龍馬像の他にも坂本龍馬記念館や土佐闘犬センターがあり、桂浜は高知の観光名所の一つとなった。



写真4 桂浜周辺図

浦戸大橋の完成した1972年7月当時は、日本道路公団（現西日本高速道路（株））が管理していたが、高知桂浜道路の財源不足を補うため、1997年2月に高知県道路公社が引き継いだ。その後、2002年7月11日までは、通行料がかかっていたが、償還期限30年が経過したため、翌日の7月12日から無料で通行できるようになった¹⁾。

高知には桂浜の他にも「カツオのたたき」を初めとして数々の名物が多数ある。もし、車で高知を訪れるときは、浦戸大橋を渡って観光を楽しんではどうでしょうか。スリルを味わいたい人は、自転車での観光も有りかも知れません。

参考文献 1) 高知県道路公社 <http://www.pref.kochi.lg.jp/uploaded/attachment/59079.pdf>

(高知高専専攻科 建設工学専攻 1年 甲把浩基)

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>